

第3回 名張市総合計画審議会

日時：令和4年8月31日（水）

午後3時30分～

場所：防災センター会議室

<出席者（五十音順）>

埼玉大学キャリアセンター長/教授 公募	石阪 督規	以下：会長
おじゃまる広場副代表 公募	金野 千恵子	以下：委員
公募	草部 豊美	以下：委員
公募	澤田 二郎	以下：委員
名張市教育委員会委員	大黒 史智	以下：委員
地域づくり代表者会議会長	辻 愛	以下：委員
一般社団法人つなぐ代表	時枝 民生	以下：委員
伊賀地域防災総合事務所長	野山 直人	以下：委員
民生委員児童委員協議会連合会会長	藤井 理江	以下：委員
名張商工会議所青年部会長	藤村 純子	以下：副会長
名張市農業委員会会長	宮本 雄基	以下：委員
	山崎 祥生	以下：委員

※市橋 雅美 委員（名張市観光協会副会長）は欠席。

<事務局>

名張市 統括監 中野 雅夫、総合企画政策室 室長 今村 典義、係長 西口 英司

1. 委嘱状の交付

市長より地域づくり代表者会議 時枝会長へ委嘱状交付

2. 会長あいさつ

それでは改めまして、どうぞよろしくお願ひいたします。

市長と先ほど少し話をさせてもらって、これまでの経緯と皆さんから出てきた意見をお話させていただきました。市長としては、やっぱり皆さんの思い、審議会の意見をこの計画に落とし込みたいとのことでした。

ただ一方で、スケジュールが決まっているわけですね。ですので、なかなか皆さんの意見をずっともらうことも難しいので、やっぱりある程度スケジュール感に沿う形で、計画を作成していきたいですが、審議会は2時間です。皆さんが自由にお話ご議論いただく最後の会というふうに思っています。

これからは、ある程度計画の進捗に合わせて皆さんに、ところどころでご意見をいただく形になってくると思います。今日は特に重点プロジェクトに力を入れて、ある程度まとめていきたいと思っておりますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

第3回審議会の進め方についてですが、今日から委員としてお願いをしておりますので、今の名

張のまちづくりの現状と課題についてお話させていただきたいと思います。名張はまちづくりが非常に有名で、全国の自治体が視察にきたり、「ゆめづくり地域予算制度」という約20年以上前に財政非常状態宣言が出て、まちづくりに使っていた予算を、一旦市が引き上げて、それを各地域に分配をしていくという新しい指針を名張では構築して、その当時は非常に画期的でした。

ただ一方で、団塊の世代を中心にまちづくりを進めていたが、やがて高齢化を迎え、今、若い方がなかなかまちづくりに参加しないということがあるかもしれないし、また、まちづくりの中でも、地域によって、差もあるのではないかなど。うまくいってるところいかないところ、こういったところも課題としてあるのではないかと思いますので、今日時間が短いですが、そういった現状を含めてお話いただければと思います。それではよろしく願いいたします。

(委員)

青蓮寺・百合が丘の代表も4年目を迎え、今年15地域の代表になったということでございます。私自身、去年に病気になりまして、少し外から地域づくりのことは見ると、代わりが誰か居てるのかなど。よく考えてみると、地域で様々なことをしているけれども、福祉で高齢の方のために色々な活動を組織でもやってるし、それぞれのサークルで自分たちでもやってる。

それから、小学校中心の地域分けでもありますので小学生を対象にした子どもの育成のための色々な活動をたくさんしておられますが、働いてる世代はあまり地域づくりに参加していないなど。

そうすると地域づくりは要らないのではないかと病院の中で思いました。会長の紹介もあったように、地域づくり組織の活動がおよそ20年かけてようやく小学校単位で全域がやっていく。私が先輩からお聞きしてる中では、どこの地域でも、一緒にやっついていかないといけないという合意を得るためだけに10年はかかったと。

ここでようやく、段階を追って地域づくり組織条例というのができてきて、それから10年強が経ちますが、皆さんの力のおかげで前に進んできたものの、明らかに働く世代の地域活動じゃないというのが大雑把な印象なんです。

課題を少し落としてみますと、何か新しいことをしようとしたときに、15年ほど頑張ってる地域こそが、地域の枠がどうしても足かせになっているところもあります。

今度は広域で何かしようと思ったら、誰が興味あるのかなと思う。

老人の場合も若い世代の場合もありますが、中身のコンテンツで何かというと、色々な職種にも関わり、趣味のことについては、興味の有無がありますから、ものすごく広い範囲から何かをしようとする。そうするとかえって、今の組織が足かせになってる部分もあるのではないかとというのが一つ大きな課題です。

それと、若者の参加については、今の日本の社会は、ほとんどが夫婦共働きで、情報がいっぱい出ており、生活していくには何とかなるといって、若者が多いですね。子どもを育てないといけないから学校は必要で、病気になると困るから病院も必要、それ以外は自分で何とかする。そういう課題が今の地域づくりにはあると思っています。

地域づくりで思っているのは、何かやろうとするときに、隣の伊賀地域や、奈良県と広域にやっついていくと、若い世代や子どもがいる世代が、自分の地域が主催者と思ったら一番手伝ってくれそうなすごい能力のある人が気付いてくれるのではないかと。

今の15の地域単位にこだわらずに、広域でやっついていくという仕組みづくりを我々自身が、今の仕組みから自ら進んで変えていく。条例のここを変えたら、よりやりやすくなるのではないかと

うことを目標にして、広域で何かをやりやすくする。

それともう一つは働く世代が参加しやすいという部分は、先ほど共働きって言いましたけど、本当に今は子育てをして、大学まで進学させるとなると仕事っていうのは大変です。学生はアルバイトを休んでまでボランティアで地域の活動をするのはちょっと勘弁してと。逆に言いますと、地域の活動で、時給は安いけど出せる場合ならアルバイトを休んでこっちに参加していこうと。そういうような小さな有償ボランティアのような小さな関わりがあれば、もう少し今よりも参加がしやすくなるのではないかと思っています。

それから、主に地域の役員を担っているのは高齢の方ですけど、団塊の世代は、若いときにバブルの時代を経験していますし、今もらってる年金でも、安定感はあると思います。それ以降の世代は、高齢でも、今まで働いた場所での再雇用にして70歳ぐらいまでは働く。そうすると、なかなか地域の活動ができない。

一方で、地域の活動をしようと思っても、孫のことをしないといけないので、働かないと年金だけでは辛いという人がものすごく多いんです。

地域活動には、収入が少しある草刈りや庭のお手入れといったものが若干ありますが、全くボランティアというものもあります。地域住民の貢献のためにしながらも、少しでも収入が得られるような活動でないと、民間の人がやっていけるほどの勝算があるような収支計画が立たない。つまり誰もやらない。福祉の補助金を少し使って、地域のボランティアを少し手伝って、少し給料を出すというような活動のあり方に持っていかないと、高齢の方も少し有償のボランティアの方がよりやりやすい。そういうことに目を向けたことにしていきたいなど。

市長は、施政方針の中で、それを支えてきた産業界の雇用が少し弱ってるので力を入れたい。で、地域づくりにしても、急に何か事業を思いついて、それが雇用になるところまではちょっといかないと思う。それよりちょっと手前の福祉やボランティアを組み合わせたような活動をやって、それを民間の誰かが見て、もう一步考えたらたら起業できる。そういうつながりがあれば、間違いなく雇用につながるし、場合によっては福祉系の産業になるのかもしれない。少しでも貢献できるような地域づくり活動を目標にしたいなと思っています。

(会長)

ありがとうございました。

まとめさせていただくと、地域活動エリアの広域化。小学校区が15あるんですかね。地域一つの単位じゃなくて広域的にこう連携するような動きが出てきてる中で、今の枠組みを見直していく必要があるだろう。例えば、二つにまとめて活動するとか、広域化、多様化が今の流れですね。

昔のように例えば地域の祭りだけをやりますとか、様々なアイデアが出てきて、それをまとめるのが非常に難しいような状況になってというのが多様化です。エリアが広がった一つの課題です。

もう一つは、お金の問題がありましたけれども、現役世代は非常に仕事が忙しく、そういう中で片手間に関わってもらわけて、ほとんどボランティアである地域活動になかなか関わっていただけない。そういう中で現役世代が関われるような仕組みを作らないと、これからの地域づくりはかなりジリ貧になっていくだろうという考えがあります。

一つアイデアとしてご紹介いただいたのが、有償ボランティア制度ですね。無料ではなくて、非常に少額のお金ではあるけれども、御礼としてお金を出せるような仕組みが必要。やる気やモチベーションだけで頑張ってきたが、こういう時代ですから、それだけではなかなか地域が動いてい

けない。特に年配の方も年金だけで暮らしている中で、少しでもそういった援助があるとありがたいとすれば、有償ボランティア制度を定着させることも考えられるということでした。

ちょっと話から離れますけれども、働く世代が地域活動に関われるとするならば、本当にやっぱり負担が大きいので、ちょっとしかできないっていうケースが多いと思います。空いた時間だけ関わってという方が大半だと思います。一つの可能性としては、コミュニティビジネスとか、スモールビジネスなどを本業にしてしまうというやり方もあるわけで、サラリーマンとして頑張るけれども、地域の活動もやり、もしこれがお金になって自分の生活費が稼げるということになれば、こちらを本業にしてしまおうということで、若者たちが結構色々なところで起業する。というケースが増えてます。例えば補助金などを出して、地域の中で若い人たちが、ボランティアではなくてコミュニティビジネスを展開できるような、そういう地域の方と連携をして地域活動サポートできる仕組みがあっても面白いのかなという気がします。本当に元気な世代がやる気やモチベーションだけで頑張ってこられたことが、いまは難しいというのが課題です。

おそらく今お話されたことは、皆さんもご存知だと思いますが、ご質問とかご意見あればと思います。このままでは回っていかないということです。マンパワーが足りない。それだけ多様化していて、地域によって色々と違うのでその地域の中だけでもうやっていくのは難しいのではないかと思います。

そうなってくると広域化するってことは逆に、行政のサポートが必要になってくるので、コーディネートであるとか、仕組みづくりをやらないと駄目だと思います。もともと名張が誇る「地域づくり」がジリ貧になっていくという危機感も、お持ちだと思います。

(委員)

地域づくりの活動ですが、普段、仕事で出ていることが多いので、「いつ何があるか」が、あまりわかっていないというのが現状です。私は今、つつじが丘に住んでいますが、とくに旧町や、薦原とか、地域密着の地域では、横の繋がりが結構濃いものがあるのかなというところです。

つつじが丘に10年前に来てから7年ほど賃貸で住んで、そこから家を建てましたが、同じ縦の筋の人の顔と名前が一致するかというと、そうでない現状があります。

地域のことに関しては、1回班長が回ってきて、その1年間は当然やることも明確になってるのですべて参加させていただいたのですが、それ以外のところは妻に任せっきりで、仕事があるから行けないのが現状です

(委員)

日頃は元町や新町の古民家で作業をしています。育った地域は平尾ですが、10歳で梅が丘に引っ越しました。どちらも子どもの目線から見ると、旧町は昔も今もずっと人の顔が見える。ただそれは、筋や通りの人の顔がわかるというよりも、顔のわかる人が多い。例えば、ここの区長は誰、ここの区長は誰とそういう顔が見えるということですが、それは本当に心から地域の事を考えてくれているから顔がわかると感じています。

住宅地の方が持ってないということではなく、伝わってきやすいということと、圧倒的に見えやすい。旧町は地理的にもつながっている。各住宅地は、6、7っていう小さい単位で各自治会と成っていると思うんですけども、そうなってくると、自治会の役員さんが多い。

(会長)

二人のお話は全然違いますね。同じ市なのに、住んでる地域によっては、旧町と住宅地では、かなり住民の関係やまちづくりの熱の強弱が違うのですね。

(副会長)

違いますね。農山間部でも、私は赤目地区ですが、錦生地区ともまた違います。同じ行事をしても取り組み方が違う。参加する人の考え方が違う。赤目は地元で働いてる若い世代が多いし、まちづくりに率先して参加していただいて活動していただいている。自営業の方とかが多いので、後継者不足には今のところならないかなとは思ってる。でも、団塊の世代の方の力がまだまだ強いというような感じが見え隠れしているところですよ。

(会長)

今の3人からお話いただき、全く様相が違いますが、さっきのお話で10年かけてようやく全市的な取り組みに高めることができ、それを20年間かけて定着させてきという話ですが、今度は逆に、地域で問題が出てきて、今までみたいにまとまって、一つの制度では逆に難しくなっているのではないかという気がします。

おそらく住宅地は住宅地の問題、旧町には旧町の問題、農村部にまた違った問題がある。そうすると、やはり地域ごとに、ある程度課題をはっきりさせて、それに合った制度や仕組みを、地域が選べるようにしていかないと、一律のやり方というのでは厳しいのかもしれないですね。

例えばさっき言ったように有償ボランティア制度をうちは使いたい、うちは使わないけれども、逆にこういう形のサービスが欲しいとか、いくつかのメニューがあり、地域地域の特性に合ったメニューを自分たちで選択できるような制度はどう思いますか。

(委員)

今の15地域は、そのベースは自治会や、まだ区のままであったりしてるところがありますので、取りまとめを把握するのはかなり難しいと思う。もうひとつ上の市政で、15地区にとらわれずに何かやりやすい方法を持つてくるのが大事だろうと思います。

議員が人口比で選ばれるので、人口が多いところがどんどん変わっていき、知らない間に山間部や過疎になっているところはほったらかしになってしまう。それは単に人口だけじゃなく、そこに行くのにもかなりお金もかかり、そこを守るためにはどうすればいいのか。バランスでいうと、すごく労力やお金もかかることではありますが、「名張はいいところ」って言ったときに過疎になったところには行けないでは、まち全体としては良いまちではないと思います。

議員には申し訳ないけども、人口がたくさん居るところからたくさん出で、過疎になりそうところの議員が誰もいない。これでは山間部をどうやっていくのか。労力もお金の問題もあるが、そこを乗り越えないと、せつかく先を見据えた「名張はいいところ」と思うときには間違いなく、取り残した場所があるというのは見えなくなる。

(委員)

私が持つてる知識では、市の行政があつて、その下にまちづくり協議会があつて、その下に自治会があると思う。私の住んでいるところは、30~40年前にできた住宅地で、そのメンバーで

自治会をつくっています。

私の地域では自治会長の成り手がいませんが、昔からある地域では自治会長は名誉職になっています。選ばれたら喜んでられます。「父は5回も自治会長をやってる」「区長をやっている」と。でも、私の地域は、次の会長を選ぶのが大変。私の前に会長をした人は会社勤めで、携帯電話は一切みんなに知らせていません。携帯電話を知らせると昼間に電話がかかってくると仕事にならないと。それで副会長の私のところに電話がかかってくる。僕は家でいるので電話がかけやすい。

自治会を調べると、大昔からある訳ではなく、戦争時代に政府が創り、そのまま引き続き今に至るそうです。

(会長)

そういう状況なんですね。

みなさんと今、課題を共有いただいて、名張は多様な地域で、住宅地や旧町、農山村部もある。その中で、一律のまちづくりのあり方、これまではリーダーシップを持って進めてきたけれども、今後は色々な地域課題が出てくる中で、もう少し柔軟でしなやかなメニューを用意しながら、自分たちにとって必要なものを選択していくような、そういったまちづくりでないと、例えば若い人からするとお祭りだけにしか使えない補助金しかないとかでは話ができないわけですね。

自分たちがやりたいことを地域でできるようになるように、そういったものを周りが作っていく必要があるんじゃないかというのが、皆さんの話から伺えます。ぜひ、その辺も計画の中に落とし込んでいけばいいのではないのでしょうか。つまり、まちづくりが今までの程度成果を出したけれども、これから先を考えたときにこのままでいいのかどうか。特に、現役世代の若い人達がまちづくりに参画してくれるような、そういったの仕掛けや仕組みを必要があるということですね。

この話はこれで終わりにさせていただきたいと思います。また後程、計画の中で関連することが出てくるかもしれませんので、その時にまたお願いできればと思います。

それでは、資料を事務局でまとめていただきましたので、これを簡単にご説明いただいて、皆さんからまたご意見をいただきたいと思います。それでは、事務局の方よろしくお願ひします。

4. 第3回審議会の進め方について

事務局より資料「第3回総合計画審議会資料」を説明。

(会長)

おそらく今日、すべてを結論に持っていくことは難しいと思います。まず事務局の一つの提案として「将来像」ですが、現計画の目指す名張の将来像は「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち名張」。私はこれイメージですけれども、自然と文化豊かな、どちらかというところと皆さん非常に穏やかに、豊かに暮らせるというのは、あまりむしろ何も変化がないところ、逆に言うと、これが良さというもの、この名張の良さを将来にわたって続けて欲しいというイメージがします。

また、「元気で」や、「幸せ」が皆さんのイメージする10年後の名張の将来像と重なるかどうかですね。ちなみに対極を上げるとどうなるかということ、私はもっと活力あるとか、ダイナミックであるとか、或いは色々な人たちが意欲的に参加するになると思います。

他市の総合計画を見ることがありますが、都会に行くとは逆で、活気があるとか、若い人がどんど

ん意欲的に物事にチャレンジできるとか。そういうようなイメージです。どんなまちがいいのか、皆さんに伺いたい。

(事務局)

このキャッチフレーズは、現在の「新理想郷プラン」のキャッチフレーズですので、今回については、この5つのキーワードが、どこかに入っていくのかなと思っています。

(会長)

そういうことですね。ここにある現計画で10年やってきたってことですので、これを新たに変わっていくということですね。

名張をこれからどう変えるかということで、5つのキーワードを皆さんに挙げていただいていますので、これを見ると「幸せ」とか「自然」は、これまでも入っており、どちらかという、亀井市政の時に作られた計画を踏襲するというのは形ですかね。あまり大きな変化を望まないという形が良いのか、それとも市長も変わったので、もう少し何か「活力あふれる」とか入れて、あと「元気」のところも強調するというのも一つありかなと思います。そのあたり、皆さんの考え方を聞いてみたいんですが。

(委員)

北川市長からは、観光産業に力を入れたいということで、また、若者参画であるとかっていうところも含めて、今までの計画よりはエネルギーな文言が入った方が良いのかなと。これから10年後を目指すっていうところに、当然ながら人口減少があると思いますが。

(会長)

高齢化がどんどん進んでくのはまずいだろうということですね。

(委員)

そうですね。先月、北川市長と話し合いの場を設けていただいた中で産業の話があった。当然ながら、名張で商売をする人間が少なくなってきており、名張の中で商売してもお金が入ってくる仕組みができてないという現状もある。参画という部分で、商売を増やして活性化ができるようなまちをつくれたらよいというところは思います。

(会長)

そういう意見もありますね。もっと活力が産業振興に繋がるような、色々なアクションを起こして欲しいという要望もありますし、一方で、ずっとやってきました「福祉の理想郷」にする。だから福祉とか幸せとか、安全というものをやってきたわけですがけれども、おそらくここで一つ「活気」だとか、先ほど言ったモチベーションや、やる気とか、そういうところをうまく行政に生かすような、そういう意見もあるのかなと思います。ほかの方はどうでしょう。

(委員)

このキャッチフレーズは、自分自身が若いときにここに来て、子どもを育てて、今暮らしていて、

名張は良いところだと思っていますが、これが維持していけるのかなというような気がします。

「幸せ」という言葉が、私はあまり好きでなくて、「幸せ」はそれぞれ個人が様々な立場で主観的に「幸せ」と思ってるかですから、これを入れてしまうと何でもよくなる。どこか1つの部分でもできていたら良いみたいな。何かわからないまま「SDGs」と書いていけば良いみたいな。それで何をするのかと聞かれて、何を優先するのかがよくわからない。

私が単純に思ったのは、基本的には名張が福祉の理想郷づくりというのはあんまり違和感なく思っている。ただ、このキャッチフレーズで違和感を持つてるのは「幸せ」の部分で、「誰もが元気に暮らせるまち名張」というふうにしてくれた方がわかりやすい。

(会長)

「元気」というところを強調して欲しいことですね。

(委員)

「幸せ」を取ると元気がかなり前に出てくるからいいなと思います。

(会長)

これは旧計画のものですから、これに引っ張られる必要ないですが、自治体ではこの「幸せ」は結構使います。あと幸福度とか。三重県でもかつて幸福度ランキングで一位とかそのようなことを言っていましたし、「幸せ」というのは色々入ることがあるのですが、「誰もが元気」をもう少し強調された方がいいということだと思います。

他はいかがでしょうか。これまでの名張が市民の安全や、健康、あるいは「福祉の理想郷」において生活を保障します。というようなことを強く訴えてきたわけですが、今、話がありましたが、これから急速に高齢化が進む中で、地域でもある種の格差がついてきて、このままではどうにもならないところが出てくるかもしれない中で、若者が今流出している。「活力」「活気」が必要だと思いました。

(委員)

日頃、地域に接していて、前から感じていることを思うと、私は名張で生まれ育ち、Uターンで外を見てから戻ってきた。自分で空き家を利用し、起業をして、よくお声がけをいただくのですが、その中でよく聞く言葉が「名張のまちって何もないよね」ということです。でも、一度外へ出て帰ってきたものとしては、名張は、むしろ価値しかないのではないかと。それは目線の違いだけであって、ずっと名張に住んでいる滞在歴が長い人は、どうしても過去と比べてしまい、なかなか外から見た価値や、自然が価値と見えなくなってしまう。これも仕方がないと思う。

それを、今現役の大人が平気で口にすると、それを聞いている子どもたちや学生たちに刷り込まれるというか、そのようなまちだねっていうことで通っていくのではないかと。

先日、名張高校のフィールドワークでうちの場所を使っただき発表をしてもらったのですが、皆さん口を揃えてというのが、行政が発信するものはないというか面白くないと。楽しいとは伝わらない。だから、本当にこういう場とか、価値をどう伝えていこうとか、まちをどうしていこうというのは、全然若者に伝わっていない。仕方ないと思うが、そう考えたときに、10年後、本当に残さないといけないものは何か。私は地域に住んでる人たちが、この地域っていいねと思えるこ

とが、10年後でも住んでみようかと。それが、故郷に帰ってきたときに、地域の人たちが、地域にたくさんある良いものが見えてないのがすごく寂しいなと思っています。

(会長)

地域のものを地域の人たちが愛していく。そこがないと、「この地域って結局何もないよ」とか言う、それだけでもう駄目になる気がします。

(委員)

キャッチフレーズは企業でいうと企業理念になるので、それがあればすごくいいと思います。

(会長)

面白いですね。自分たちが自分たちのまちを好きになる、愛せるというキャッチフレーズはあまりないと思います。

(委員)

そこに価値が転がっていると思います。今まで積み上げてきた伝統文化や歴史もそうだと思います。

(会長)

自分たちが誇りに思わないといけないですね。「そんな大したことない」と言うことは駄目。そういうことを言うと残っていかないわけですよ。ありがとうございます。

(委員)

私、今の総合計画を作る時も関わらせていただいて、あのときの雰囲気がいい状態だったのでこういう文言ができたと改めて思い返していました。その時はまだ出生率が上向きで、1年間で700名ほどの出産があったが、今はもう半減している。そういう意味で、これを作ったときは、これを維持したままというイメージでの審議でした。

それが今、現状が変わってきて、明らかに半減していますし、まちを見ても商店の数が減ってるとはっきりわかる。そう思うと、やはりここで「活力」「カツを入れる」ということで方向性を変える気持ちでいかないと。まして、市長も変わったので、ガラリと方向性を変えたいっていう市民の声って結構私の周りにもあります。

ですので、会長が言うように、この文言をガラッと変えてでも、イメージを打ち破ることが今はすごく望みたいところでありますので、だから皆さんおっしゃったような「幸せ」という漠然とした言葉よりは、はっきりと打ち出す言葉でもいいと思います。

私は大阪から引っ越してきて、住みだして25年ほどで、大好きで良いとこばかりだと思います。大きな住宅団地に住んでいますが、周りの方たちはあまり評価していない。何故かなと思いますが、私はとてもここが好きで、「いいところと思うけど」。で終わらないで、「いいところなんだ」ということを打ち出す文言が欲しいと思います。具体的には何かわからないですが、そういう方向性を探してみたいです。

(会長)

10年前の計画策定の経緯がわかってよかったです。やっぱりそのときの名張は成長期だったのですよね。ですから、それをむしろずっと維持していくために、このようなキャッチフレーズが使われたと思うのですが、今はそういう時期ではなく、完全にターニングポイントを迎えている中で、こういうような表現だと、何かこの小さくなっていくのではないか。だから、そういう意味では活力、活気、それから自らが誇りを持つという視点が非常に大事で、そうしないと変わらないですね。

ありがとうございました。何かあれば、挙手をお願いします。

(委員)

私もこのキャッチフレーズを見たときに、優しすぎるようなキャッチフレーズだなと思い、これから北川市長が産業、観光や、名張のいいところを外に発信していくと言っているから、この豊かな自然とか文化を生かしながら、もっと活力ある産業、豊かな自然の中で生まれる農業など、名張の自然を生かして、産業ができていくような、もっと前向きなキャッチフレーズがいいかなと思います。

市長が思っていることも考えながら、キャッチフレーズで強く攻撃的ではないですが、皆さんの意見に賛成で、そういうふうに変えていくにはすごく勇気がいると思うのですが、変えた時にそれを達成していくのは、すごく希望があり、みんなで愛してくれて、進めていくことができるのではないかなと思うので、本当に良いキャッチフレーズを皆さんで考えていただけたら嬉しいと思います。

(委員)

今、抽象的という話が出てまして、私も感じているんですけども、先ほどから出ていますように、産業を起こして定着させようとする、きちんとした方針というか、思いが強く出ておりますので、そこは具体的に、住民の方に抽象的ではなくて、もっとインパクトあるものっていうものを今回は打ち出すべきであろうと思います。具体的なものとして、例えば1年前に皆さんもご存知のように、多気町にVISIONができています。見られた方もいると思いますが、人口は市町村合併をしても名張の5分の1しかありません。1万5000人ぐらいだと思いますが、8年かけて実現させてます。融資を積極的にやって、SDGsもそうですが、様々な要素を入れて、薬草園の農業・自然、そういった雇用を生むための要素も含めて、周辺の市町村を抱き込んでインパクトのある商業施設をつくった。

名張でもなにか起こせないのかなという思いを、私は、最初からずっと抱いておまして、どう考えても名張の力だけでつくれるのか、若者合意を有するなど、果たしてできるのかというと、やはり他から資本なり力なりを得て、やらないと形にならないと思います。私は、農業の再生を一番に置きたいなと思ってますが、このような良い例があるので、8年かかっていますが、頑張って実現させるということがあります。これも農業と色々な雇用を生みます。複合的な「産業をおこし」していると思います。

(会長)

これは重点プロジェクトのところで、まさにおっしゃる通りです。地域資源を活用した産業の育成ですね。

(委員)

より具体的に住民の方にインパクトがあるような形にして、抽象的なものはできるだけ外してアピールをする。市の中に何かそういう部署をつくって前向きなものを今回はお願いしたいと思います。

(会長)

具体的なプロジェクトの話ですが、キャッチフレーズについては皆様のお話を伺っていると、現在の計画は「静」か「動」かという「静」で、流れのままずっと維持していく。皆さんの話では「動き」ですよね。このままではいけない危機感、せつかくポテンシャルを持っているのにそれを生かせてないもどかしさもある。それから、名張市民はあまり誇りを持っていない人もいて、もったいない気がします。そういう人たちに気づきや変化を与えたい。これがこの計画策定の共通する目的ですよ。

キャッチフレーズを考えたときに、例えば「自然」とか「幸せ」は「静」と「動」でいうと「静」の穏やかなイメージで、もう少し皆さんの話を統合すると、「共生」は穏やかな感じで、「連携」「参画」は新たな動きで良い。先ほど言ったような地域の誇りや、郷土愛も含め、あるいは産業の振興や、若者支援なども動きを与えるものと皆さんからお話をいただきましたので、事務局と相談をし、動きに繋がるものを検討していきたいと思います。

キーワードを挙げてもらっていますが、「幸せ」「自然」「共生」あたりはどうなのかは、発言いただいたものをキーワード化して、文言も「動き」のあるような、名張がこれから「こう変わっていくんだ」、「前に進んでいくんだ」というのが伝わるキャッチフレーズがいいのではないかとこのことを共有させていただきたいと思います。

(委員)

会長の言う「動き」で、今、意見を聞きながら思ったことは、今までの「文化に包まれて」や「誰もが暮らせるまち」は、誰かにしてもらうばかりで、主体性がない言葉。だから「豊かな自然と文化」はて力をかけて受け継いでいかない。自分たちが自然や文化を受け継いで、みんなが参加や参画できるまちとか、自分たちが動いていくことを主体的な言葉に変える方がいいのではないか。このまま読むと誰かがしてくれるだろうという感じがする。

(会長)

「主体性」ですね。「市民自らが」というところが大事かもしれませんね。誰かがしてくれる。おそらく「誰か」は行政で、行政が地域に対してサービスをしてくれるという感覚が強い。市民自らが変わって、自分たちがアクションをする。それは先ほどの誇りや愛もそれに繋がると思います。キャッチフレーズについてはよろしいでしょうか。

今の話をまとめて、次回は案を皆さんにお示しできるよう検討させていただきます。

続いて、基本目標は5つのキーワードと、その下に7つの案があります。「産業」「まち」「ひと」「しごと」「福祉・子育て」「安心安全」「情報発信」、これ自体は単語としてではなくて、これをどうやって表現するかということになってきます。

基本施策というのは、行政の事業と関係があります。例えば、3ページところの、基本目標、基本施策。これは事務局である程度落とし込んでいただくのか、それとも、考え方を皆さんと共有するのか、事務局としてはどのようなイメージでしょうか。

(事務局)

前回の話でまとまった五つのキーワードが、「共生」「連携」「参画」「自然」「幸せ」でしたので、連想するフレーズを上げさせていただきました。ただ、今の議論で目指す名張の将来像が少し変わってきました。「みんなで参画する」とか。

(会長)

参画や連携という言葉は比較的合っていると考えられる。

(事務局)

「自然」や「共生が」、「活力的」、「変化を求める」、また、自分たちが自分たちのまちを愛するような形になってきましたので、そういうイメージを、目指す名張の将来像とし、それを、実現するために、大きな分野でどういう取り組みをしたらいいか。という考え方で見ていただければと思います。そうした時に少しこの文言が変わるのかどうか。例えば、1番目は「まち」とか「人」とか、「こういう文言はどう」というところをディスカッションいただきたいです。

(会長)

そうなると、例えば、「福祉・子育て」とか「安心安全」というのは、おそらく亀井市政から継続してやってきたことですので、これはそのクオリティ維持するということだと思います。問題は、それ以外のところで、産業、まちづくりもそうですし、人材育成、或いは人の集客や情報発信も名張は弱かった。さらには行政運営で、行財政改革も必要になります。具体的に他にこんなことに名張は手をつけないといけないというものがあれば皆さんからご発言をいただきたいです。これは単語で構わないのです。

(委員)

「ひと」というところに入るのかもしれませんが、「教育」が含まれていないと感じましたので、教育の充実や、学校教育だけではなく、生涯学習や生涯スポーツなど「教育」を付け加えたいと思いました。

(会長)

「教育」は「ひと」にも入るし「福祉」にも入ります。国では来年度に、こども家庭庁という新しい省庁が設置され、教育部門や福祉部門を統合して「子ども」という概念で行政をやっていくこととなりますが、名張はどうでしょうか。子育て、福祉部門だけでは当然ないので、そのあたりはどうでしょうか。

(事務局)

今、「福祉子ども部」で、福祉子ども部長と子ども関係の担当部長を配置させていただいております。もともと、健康福祉部と子ども部というのがありますが統合して今の福祉子ども部になった経緯があり、新しい機構にするのかはまだ未定です。

(会長)

福祉の中に子育てが入ると、基本的には子育て支援になる。保育では、どちらかという子ども
の主体性も伸ばし、将来に生かしていくことや、子どもの前向きな動きを支援していくのは教育の
役割だと思います。どこまでが福祉で、どこまでが教育かというのは線引が難しいと思います。そ
ういう意味では、子どもというくくりで、子どもを全庁的に支援して、子どもの成長を全庁的に支
えるというようなイメージはいいと個人的に思いますが、そういう考え方は難しいのでしょうか。

(事務局)

福祉と教育部門は連携していますが、部局としては分かれているのが現状です。

(会長)

今回の計画の中で「活力」や非常に動的なキャッチフレーズを入れていきますから、子どもの主
体性を伸ばしていく子育てのために何が求められるのかを逆算して事業化していくことが必要な
のかもしれない。だから、教育との発言ありましたが、そういったことも含めて広い意味での教
育は「ひと」の中に溶かし込まれていて、何か子どもを伸ばしていくというようなことがあまりな
いということでしょうか。

他どうでしょうか。こんな視点も必要だとか、こんなことがあってもいいのではないかとか。

(委員)

先ほどお話もありましたが、名張を誇りに思うとか、郷土愛でいうと、名張の歴史や、文化も入
れていくべきなのかなと思います。

先日、市議に名張の歴史について、色々お話を聞きましたが、ベッドタウンで半数以上が名張の
在住の方ではない中で、名張の歴史を全然知らない部分があって、話を聞けば聞くほど、色々なこ
とがあって今の名張が形成されてるというのが、改めてわかる部分もあった。そういった中で、「能
」であるとか、そういった文化をもっと周知できる工夫ができれば、県外の人の見方が変わるかもし
れないので、歴史や文化は入れてもいいのかなと思います。

(会長)

おそらく文化や歴史は、皆さんかなり共有されてると思いますが、これは情報発信に入るのでは
ないかと思います。発信できてない、共有できていないところに実は課題があるのではないでし
ょうか。せっかく文化、歴史を大事にするまちであるにもかかわらず、それが上手く色々な人に伝
える手段が乏しかった。というところであれば、情報発信と思います。

行政では文化の部局があり、歴史とか文化を維持・保全する。そこと情報発信とがうまく繋がっ
てなく、外に向けて発信できてなかったところに、課題があるかもしれないので、むしろ情報発信
の大事さに絡んでくるかもしれないです。行政情報とは行政が一方的にも出す情報ですが、市民の
ニーズや市民が必要なものが本当に送られてるかどうかはわからないわけですよ。本来、市民は
情報の伝え手でもあり、発信者でもあるわけですから、それをうまく行政が共有する仕組みが今ま
で名張ではなかったということになると、そこは課題と思います。

(委員)

歴史や文化について、事務局にお聞きしたいですが、資料15ページの理想のまちの将来像で、

福祉介護の充実が16.5%、歴史・伝統文化の振興や国際交流の推進1.4%となっておりますが、これは市民の方の意見ですか。

これを見たときに、歴史・伝統文化を重要視してないと残念に思ったのですが、だれの意見かわからなかったのでお聞きしたいです。

(事務局)

これは市民意識調査の結果で、対象は市民の方になります。

(委員)

私は歴史の話をしていますが、テニス友達でつつじが丘の方がいたのでつつじが丘に行き、歴史の話をしよと思ったのですが、そんなの嫌がると言われてショックを受けたことがあります。歴史の話は面白くないとか。自分自身はとても面白いと思い、色々勉強していますが、その時の残念の気持ちが、これ見て、そうかなと思いました。

(会長)

歴史・文化は非常に大事ですが、この数字がこんなに低いと思うと、そこまで情報が共有できてないところもあるのではないかな。うまく伝えることができれば、市内だけではなく市外へも情報が伝わっていきますので、これはDXとかITの問題も入ってきますが、行政の対応が遅れているかもしれない。SNSの発信とか。

(委員)

伊賀市と比べると情報発信が遅れている気がします。伊賀市は全面的に忍者を表に出して、色々やっていて、観光客もすごく多くなってきている。お城、忍者屋敷があり城下町があるが、名張のたくさん良いところがあると思う。だから発信の部分で、良いところがありながら前に出ていない、観光客が減ってくるのは、攻撃性がない、攻めていかないと人って来てくれないと思うので、やはりこれからの時代は情報発信がうまくいかないといけないのかなと思います。

赤目キャンプ場を青年会の方がしていますが、私たちが考える以上にWiFiを入れて、リモートもできるように設備を作りましたとか、色々なことを発信して、お客をたくさん呼んでいる実績もありますので、若い人達の意見を取り入れながら情報発信に力を入れていく必要があると思います。

(会長)

はい。ありがとうございます。

今7つの言葉があがっていますが、「福祉」という言葉は気になります。福祉は確かに何でも当てはまる言葉ですが、福祉ではない単語で、例えば「子ども」や「子育て」の方がいいのかなと。また、「ひと」も、かなり漠然としていて、今おっしゃるように、人とは人材育成なのか、若い人たちへの支援なのか。あと「まち」ですが、これはおそらくハード、ソフトの両方があるので、道路を作ったり、まち並みを活性化したり、まちづくりというソフトの部分の両方を含むことなのかもしれませんし、あるいは、広い意味での「まち」なのか。情報発信に繋がるようなことかもしれませんが。

産業は逆にわかりやすいですよ。産業振興や雇用の確保など様々あるかと思いますが。

(委員)

例えば、福祉とか子育てから連想し、考えていましたが、チャレンジに結び付かないと思いました。「支える」という言葉がキーワードかなと思っています。チャレンジできる場も少なくなっていると思うし、失敗してもいいのだけど、失敗の後に支えてくれるイメージが持てないと思います。子育てや福祉もそうですがどう支えるか、そのサポート体制とどういう連携があるのか。

(会長)

「伸ばす」や「育む」とか成長の方を支援するというのと、失敗した場合や駄目になったときにみんなで支え合という両方の支援がないとうまくいかない。人手不足もそうですよね。むしろ「支える」というワードも大事ですね。

(委員)

そうですね、それができるからチャレンジができる。

(会長)

でも、行政はチャレンジとか失敗がOKではないのですよ。失敗が許されない。

(委員)

それができるのが民間だと思います。

(会長)

そういうところは民間にお願いするか、あるいは再チャレンジできるところまでは踏み込んでもいいかもしれないですね。行政は失敗してはいけないかもしれませんが、少なくとも市民が失敗しても、次につながるようなサポートをするというところは必要ですよ。

また、キーワードとしては、「ひと」が少し大きすぎるのではないかと、「福祉」も「福祉ではない領域」と線引するのは、なかなか難しい。安心安全も場合によっては福祉に入る。逆に安心安全は防災、防犯も入ってくる。

(委員)

福祉の中に「子育て」は、少し違和感があり、子ども関係は一つ独立した言葉として見ていただいて、しかも名張の場合は、子育ての拠点となっている「かがやき」という施設があります。正式名称は「子ども支援センター」で「子育て支援センター」ではないんです。「かがやき」を建てるときに、他の自治体は一般的に子育て支援センターというネーミングだったんですけど、あえて名張は、子どもを中心に色々なサポート事業組むイメージを持て、あえて「子育て」ではなく、子どもを中心に「子どもを支援」をするネーミングとしました。福祉に子育てが包括されるよりも、「子ども」として、ひとや保育でも、子育て支援をするのが子ども支援にリンクしてくるので、そういう意味では、「子ども」という形での文言を出した方がいいと思います。

(会長)

子育ては、広い意味では親の支援や、親を支援する人の支援でもあります。子ども支援は子ども自身の成長や親の支援も含まれる。本来子ども家庭庁は子どもを中心に考えてその子どもが幸せに暮らせるようにどういうサポートが必要かを考える。ですので、子どもという形でもいいかもしれない。

福祉の中の子育てでは、親の支援も含めて間接的に子どもを支援することになりますね。ありがとうございました。

今、幾つか出ましたので、またキーワードを見直しただいて、これを政策分野で割る形になりますか。事務局さんどうぞ。

(事務局)

ありがとうございます。議論していただいた中で、例えば「はぐくむ」や「支える」というキーワードは非常にありがたいと思っております。

育む、支えるというのが、一つのキーワードとして出すのは難しい部分がありますので、例えば産業を育むとか、まちを育む、まちを支えるとすると、全く意味が変わってくるかと思うんですけども。

(会長)

育むと支えるは、すべてに必要なんですよ。

一つは成長を支援するので、簡単に言えば車にどんどんガソリンを入れていくように、いけるところは伸ばすという。逆に支えるというのは、失敗やうまくいかない部分をささえる。そういうところをきちんとフォローしなければいけないという意味ですね。だから、その二つがすべてに入ってくる。作り方としても面白いと思います。

(事務局)

キーワードを産業、まち、ひと、福祉は子どもに置き換えて、安心安全、情報発信として育む、支えるはキーワードではなく、先のキーワードと一緒に合わせていく方向で何か言葉を作れないかと思えます。もう一つ、「ひと」が大きすぎるという意見ありましたので、ここについても、またご意見をお聞かせいただければと思います。

(会長)

そうですね。多分、まちとなると「まち・ひと・しごと総合戦略」ではないが、「まち」はかなり大きいですね。この「まち」と「ひと」はかなり概念として大きいと思うのですが。この辺をどうするかですね。ただ、「ひと」については少しわかりにくいかもしれないですね。

「まち」は比較的わかりやすい。「ひと」は人材育成とか、もう少し具体的な方がわかりやすいのではないかと。

(委員)

「まち」と「ひと」というのは、何か本当に大きくて漠然としているので、これはない方がいいとか、全部に関係してくる言葉ですよ。これはいらないと思うのですが。

それと子育てというところの福祉なのですが、介護はどこに入るのでしょうか。高齢化で非常に老人が多いまちですし、私も教育という言葉がないと思っていたので、教育の意味が子どもを伸ばすだけではなくて、老人教育や企業教育など教育もたくさんありますし大事なところであると思いますので、教育を項目のひとつに入れていただきたいと思います。

(会長)

事務局に確認ですけれども、ここにすべてが落とし込まれるという訳ではないということですね。どこかにつくるということでもいいですか。

(事務局)

3ページの表を見ていただきたいと思いますが、今、基本目標の話を見せていただいてまして、ここから施策の方に分岐していく形になります。ですので、一つ政策ができますとその後ろに具体的な事業が続いていくイメージになります。

(会長)

この7つがすべてではないということですね。おそらくここで、すべての行政施策を網羅できないのでということですね。

(事務局)

基本施策は、名張市の憲法的なものになりますので、この五つの項目のどこかに、今、名張市が行っている事業がすべて当てはまる形になります。

(会長)

やっぱり、かなり漠然としたものでないといけないですね。

(事務局)

その中で、重点プロジェクトになる部分もあると思いますので、特出しして、政策の中で、歴史文化、教育、福祉などが増える分には問題ないと思っています。

(事務局)

事務局で考えているのは、今はワードを五つの基本目標を作るうえでのキーワードを羅列していますが、ご議論をいただいている言葉を使って、分野を作りたいということですね。

(会長)

これがそのままではなくて、これに関連するキーワード、これはあくまでキーワードですから、これで例えば基本目標に「生き生きと暮らせるまち」みたいな形でまとめていくということになります。

(委員)

3ページのところで、先ほど話しされたのはキャッチフレーズとのことで、基本目標になるとこ

ろは、今は5項目に分類されて、その下に10数項目の基本施策がありますが、基本目標をどういう分類にするかということ議論しようとしてるのか。この基本施策のところの10数項目にわたって漏れがないようにしていくために検討しようとしてるのか、何かごっちゃになった気がしています。

(会長)

基本目標で、括弧書きで施策を書いているので、一番大きなこの基本目標の枠組みを、5本になるかわからないんですけど、いくつか区切っていただいて、その中に色々な施策がぶら下がるというイメージになる。だからあまり狭くしてしまうと、ぶら下がりがなくなってしまうので、比較的大きな枠組みでいう「まち」や「ひと」っていうのも場合によっては残さざるを得ないということですね。

(事務局)

一番初めに、進め方のところでも言わせていただいたのですが、今基本目標は5つになっています。次はもう少し細分化して、最後の施策は40になっております。

この基本目標が、例えば10個になれば基本施策はなくてもいいのかなと思ってます。ですので、大きな範囲でどこまでとらえていただくのがいいのか。この文言は、この項目はどうしても入れた方がいいというところをディスカッションいただいて、そのあとは、事務局で考えさせていただきたいと思っています。

(会長)

そうですね。仮に「まち」「ひと」という漠然としたこと言葉があって、その中に細かく、例えば介護などが入ってくる形になると思います。やはり見てみないと何とも言えない部分もあるので、とりあえず事務局にはある程度の案を作成いただき、それをもう一度皆さんで見ていただいて、それでいいかどうかの判断をいただけたらと思います。

ただ、皆さんから多く意見をいただいた福祉、子育ては変更した方がいいのではないかと。「子ども」という方がいい。それから「ひと」というのも大きいので分割するかあるいは直す。そういうことでよろしいでしょうか。

(委員)

「福祉(子育て)」となっていますと、この言葉の中で言ったら、高齢者とか障害者とかが全部含まれていないように誤解されるところが結構あるので、福祉なら福祉全般でわかるようなものを入れていただいて、やはり障害者福祉や高齢者福祉など色々な面で福祉が関わっているので考えていただけたらと思います。

(会長)

そういうことで「福祉」については見直していただくということでお願いします。それでは次の重点プロジェクトの方に移りたいと思います。これまでの議論をまとめさせていただくと、シティプロモーションは全部を包み込む概念ですので、実質的には産業のまち、若者参画のまち、地域の安心安全なまち、という形で皆さんからご意見をいただいて、それに重点プロジェク

トと作るイメージです。

シティプロモーションというのは手段なので、すべてに絡んでくると思います。第2回審議会のまとめで図を書かせていただきました。

産業のまち、安全なまち、若者参画のまち、先ほど、どちらかというキャッチフレーズ、また基本理念で作っていくのですが、かなりダイナミックな動きや活力は出てきてますので、重点プロジェクトについても、産業、若者参画、安心安全などそれぞれが大きく流れが変わっていく、変化をしていく、そういうことを強く訴えていかなければならないのかなとも思います。

安心安全は変わるというよりは、今までの名張を守っていくイメージになるかと思います。皆さんにご意見を頂きたいのは、産業のまち、若者参画のまち、これが実際どのようなイメージなのか。文言については、事務局で考えていくところですが、産業のまちというのは産業の活性化ということだと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

現在、特に商工業を新しく商売される方が非常に少ないです。青年部の中でも若手は自分で商売をされた方が非常に少ないのが現状で、市長とお話させていただいた中で、産業、特に商工業に関してはどんどん独立できるような、若者が自分で商売をしやすいような仕組みを作って欲しいと伝えさせていただいています。

あと建設は市外から仕事を取りに来られているのが非常に多い。名張市の中ですべての建築が回っているのではなく、一番大きな部分を県外に仕事を頼み、小さい部分を名張でやっているというところがあって、行政には、名張市、伊賀市の伊賀地域の中ですべて完結できるような仕組みを作りたいということを市長にお願いをさせていただいたところなのですが。

(会長)

産業と言えば農業も入ってきますが、当然今のままでは農業もなかなか難しいのではないかと。どうでしょうか。

(委員)

農業は守りの感覚です。子どもでも守れません。

(会長)

そうなる、それをどう産業として成長させるかだと思いますが。

(委員)

やはり後継者の育成しかないと思います。

(会長)

あとは商工連携、色々な他業種との連携とかでしょうか。

(委員)

そうですね。

なかなか個人で農業して販売するとなると大変、勇気の要ることですし、難しい部分がありますので、やはり様々な方と、ともに成長できたらと思います。

(会長)

そうなるとうやっぱり農業を守るっていう表現は相応しくないということですね。

(委員)

はい。農業をいかに発展させていくか前向きな姿勢で。

(会長)

そうですね。農業を守る、農地を守る、農業もこれ守りに入ったらほとんど縮小していくことは先ほど話してもわかりました。「産業のまち」は、単に農業、農地を維持するというのではなくて、それをむしろ産業として発展させる。そのようなイメージが必要だということですね。それから観光も守りではなくてどちらかというと同じ視点がある。やっぱり広域連携ということも言っていたし。

(委員)

赤目でも東吉野や宇陀市などと連携したプロジェクトを市役所の観光部門でやってくれていますが、奈良県の名所を巡って赤目にも来てくれるルートづくりなどを行政も絡みながら考え、もっと集客できる要素を作ってもらうことが一番の課題かなと思いますし、戦略かなと思います。

(会長)

前回の議論もそうでしたが、観光PRや、せっかく潜在的な地域資源を持ってるのにそれを生かしてない。

特に伊賀市と比べると明らかにPRが弱いという意見もありましたけれども、この辺り産業として成長させるという視点ですね。

今の話を聞くと、育むというキーワードがありましたが、産業を育むということですね。守るとか何とかその維持するのではなくて、新たにそれを育てていく。その先には発展と成長というところがあるような表記にしないと、産業のまちというイメージしづらい。そうでないと、産業のまちとは工場がたくさんある町のイメージになってしまう。

(委員)

最終的には人を集め、そういうことで町が活気づくというようなループを作らないと産業は産業として成り立たないんだらうと思うのですね。

観光が出てますけれども、例えば、名所旧跡でどれだけのリピーターが見込めるかと考えると、今もてはやされてるのは、エンターテインメント性や、アミューズメントで小さな子どもが遊べる、喜ぶ、あるいは親やおじいさんおばあさんが、子どもを連れてというパターンが一番人を集める上では、ポイントではないかと思います。

先ほどはVISIONの話もしましたが、仕掛けを作り、建設業の方や農業の方もそうですが、まちを活性化させる産業を作っていく仕掛けが一番具体的で市民にもアピールがあり、結果が出せる

のではないかなと思います。

また、全く違う観点で申し上げるのですが、真逆のことで、例えば、第一線を退いたシルバー世代には、名張はスローライフが適したまちなのかなと思います。スローライフを送るにはシルバー世代が大体20年ぐらい健やかに充実して暮らせること。そういう高齢者を集めると、農地の活用も含めてスローライフをしてはどうか。何か作業を提供してもよいと思う。新たな仕掛けがやっぱり今一番強いのかなと思います。

(会長)

今の表現面白かったですね。「産業を作る」って言い方されましたね。作る、つまり今まであまりなかった産業、例えば農業は農業、建設業は建設業、新たに一つの産業を作っていくっていう視点は他の自治体では例がない。産業を育むは言いますが、名張のオリジナルの産業を作ってしまうというのは、ものすごい尖ったものですが、市長の好みではないかという気もしますが。名張の新しい産業を作っちゃえと。そのくらいインパクトがあっても面白いかもしれないですね。今のヒントで、業界ごとにバラバラに動いている課題も見えてきていると思います。

(委員)

さっきのいい意見だと思ったのですが、退職者が集まるまち。

(会長)

それはでもなかなか難しい。

(委員)

では表現を変えます。65歳もしくは70歳が暮らすのに適したまち。風光明媚、自然に溢れるところが住みやすいですよ、買い物にも便利ですよと。そういうまちを目指すというのもいいなと。海外ではそういうまちがありますね。介護もあって住みやすい。高齢の方が住みたいなと思うにはこういうまちがありますよという情報発信されてるところありますので、ひとつの手かなとは僕は横で聞いて思いました。

(会長)

市長の意見でも、新しい産業ということで、そういう視点から考えると今の名張には観光業にもう少し力を入れいくと私自身感じてますので、現在の地域資源を生かした産業を創造する、新たな地域産業を創出することを考えさせてもらいました。特に地域のあるものをうまく利用した観光業であったり、農作物であったり。

官民連携も含めながら新しい産業を作ってしまう。ひとつのキーワードは地域資源ですね。その辺も含めて、何か今ある産業を支援するのではなく、そもそも名張に新しい産業を作る、創造するという意欲的なプロジェクトですね。名張産業創造プロジェクト、それと農業や観光、今まで幾つかあったところが一つにコラボしてみるとか。

次は若者参画ですけれども、これは先般ちょっと若者に特化してしまっているのかという議論もありました。高齢の方もいらっしゃる中で。ただ、これも先ほどある程度とがらせた方が、名張の強みを表現できて、名張に若者がたくさん集まってくるとか、活躍できるという視点は、やっぱり

むしろ打ち出した方がいいのではないかと思うのですが。

別に高齢者をないがしろにするわけでは全然なくて、若者の活躍の場を提供するということですが、いかがでしょうか。

若者が参画するになると、そこまでインパクトはないかもしれないですね。重点プロジェクトですので、それでもいいんですけど。あと、特に先ほどからあるように主体性って言葉も出てますから、やりたいと思うことが名張で実現できる。全国から若者が集まってくる、名張だったら自分のやりたいとこでできる。だから名張に来る、名張に住むというイメージがいいと思いますけどどうでしょうか。若者の主体性というものを大事にしながら、多様な地域の人材がそこで交流し活動できるまちをイメージしました。

(委員)

田舎が好きで移住してくれる人が最近増えてきてまして、移住してくれた方が商売を始めたとか、また、実家がこちらにあって帰ってきて商売やビジネスを始めたとか。そういう若者が田舎に溶け込みたいからということで地域づくりにも参加できるようになってきて、小さいことからだんだん大きく輪が広がってきて、参画というのはすごくいい言葉だと思います。

(会長)

つまり若者がやりたいとか、可能性というのが実現できるまち、ここに来るとそれが実現できる。そのために色々なサポート支援、或いは連携繋がりみたいなものを大事にする。これは何か面白いですね。やりたい形にするとか、可能性を実現するまち、とか。

(事務局)

産業を作るというフレーズが非常にありがたいなど。そのフレーズを似たところでいくと、何か若者参画のまちというのもトーンを揃えたいというのが事務局としてありまして、何か参画も踏まえた、若者につなぐ。こういう言い方がいいかよくわからないんですけど。

(会長)

いわゆる動詞でいうと、「作る」っていうプロセスと「つなぐ」ということ、それから亀井市政がやってきたものを「守る」と。この三つっていうのは名張では必要だと。それをむしろ重点プロジェクトにするというのはあるかもしれないと思います。

(事務局)

先ほどもありましたように、「育む」であったり「支える」であったり、こういう単語を今回入れていくというのがいいのかなと、今、ディスカッションを聞いてて思いましたのでそういうところで何かこちらでつくれたらとは思っております。

(会長)

それではまとめさせていただくと、今日はたくさん動詞が出ましたね。「つなぐ」とか「はぐくむ」もありましたし、それから「つくる」。そういったところを、むしろこのプロジェクトの中に落とし込んで、名張が他にはないユニークな取り組みや、可能性が見えるような重点プロジェクトを

ぜひ作っていきたいと思いますし、そこに共通してまちの活力とか活気、それから動きですね。ダイナミック。こういったものが名張では必要で、このままいってしまうと、ジリ貧になってしまう。

場合によっては、産業もそうですし、それから様々な視点もそうですし、一方で守っていきながら、変化というものを求めるというところは皆さんの思いであると思いますので、これは事務局で、ひと月ありますので、またアイデアをまとめていただいて共有させていただきます。そして、このプロセスのところはいいですね、どういう形で進めていくか。

(事務局)

はい。次回は9月末から10月上旬にお願いしたいと思っております。

次回から少しボリュームが増えてくるかなと思っておりますので、施策の方、一番この3ページの表で言いますと一番右側は40項目もありますが、事務方の方でまた見直しをさせていただく部分でもありますし、そういうところも次、上がってくる形になると思っておりますので、9月の半ばを目安に、一度事務局の方で案を出させていただいて、9月の末から10月の頭の第4回目の審議会の方で議論いただくという形になると思っております。

(会長)

それでは日程の方もそのような形で調整いただければと思っております。

(事務局)

少しだけちょっとお願いがございまして、本日もこの審議会の方に傍聴の方も来ていただいて、記録もさせていただいてますが、庁内の方でも、この審議の内容を活字で欲しいというようなこともありまして、概要なりをまとめて会長に確認していただいた後に、また、庁内に出していきたいと思っておりますのでその辺ご理解をいただきたいと思っております。

(会長)

チェックは私に一任ということでよろしいでしょうか。おそらく全員に確認するとすごく時間がかかると思っておりますので。

それでは以上をもちまして本日の審議会は終了となります。

また次回については日程調整させていただきます。

本当は長時間どうもありがとうございました。